

## 【すどうあきお、第3回定例会個人質問原稿】

私は、大きく3点にわたって、質問します。

1、 まず、防災対策の向上について、です。

(1) 第一に、避難所開設訓練のさらなる普及について、質問します。

地震では、昨年北海道胆振東部地震での震度7の大地震。水害ではつい先日も九州地方で警戒レベル5の大雨が降ったばかりです。さらに一昨日の深夜からは台風15号が猛威をふるいました。

今後、いつ東京、北区でも大地震が起きてもおかしくない、記録的豪雨が降ってもおかしくない、待ったなしで進めなければならないのが防災対策です。

その中でも防災訓練は、実際に身体を動かすことで理解が出来る実践的な取り組みとして、非常に重要と考えます。学校や、各自治会など、現在北区では各所で様々な工夫がなされています。

まずひとつ確認したいのは、区において、特に自治会主導の防災訓練自体の参加人数や参加率をどこまで把握しているのか、ということです。私

自身も様々な防災訓練に参加して参りましたが、状況は様々です。どの程度の状況を把握しているのか、お示し下さい。

また、特に大規模災害時は、避難所のスムーズな開設が不可欠ですが、北区ではかなりこの点、意識をして進めていただいていると聞いており、非常に素晴らしいことと思っております。現状での北区内での避難所開設訓練の進捗状況をお示し下さい。

次に、地区ごとにある、「地区防災運営協議会」についてです。これは自主防災組織だけではなく、学校職員や学校 PTA、民生委員や北区防災ボランティアや事業所に至るまで、様々な地域の防災関係機関を加えて組織される、現場最前線の組織で大変重要と考えますが、今後、地区防災運営協議会をどのように活用して、防災対策を進めていくのか、区の方針をお示し下さい。

そして、各地域にはそれぞれ地域特性がありますが、地勢的要因によるリスクはどこまで区で把握しているのでしょうか、それぞれの住民への周知はどのように行っているのでしょうか、お示し下さい。

私自身、先日、避難所開設訓練に参加したばかりですが、訓練で出ていた課題として2点、これは現実に避難所を開設する際に課題になると思われることなのですが、質問します。

一つは、学校が避難所の場合のカギの管理の問題です。現状は、自治会長宅や地域振興室にあるようですが、カギの変更があった際に関連するすべての場所に再配布しなければなりません。また、そもそもカギの保有を望まない方もいらっしゃるようです。葛飾区では、避難所に備えられた「ブラックボックス」に管理をされており、暗証番号で開くようになっていきますので、このような管理の仕方が望ましいのではないかと考えます。カギの管理は、避難所開設にあたり最重要であると考えますが、この点、区の見解を求めます。

もう一つは、喫煙所の問題です。避難所である学校は、健康増進法で第一種施設として規定されるとともに、東京都条例の努力義務により、屋内・屋外が完全禁煙となっています。「東京都北区避難所運営マニュアル」によると喫煙所は、原則として、学校敷地を出た屋外、雨に濡れない場所、となっておりますが、具体的な目安などはあるのでしょうか？私自身は喫煙者ではありませんが、極限のストレスを感じることが多いとされる避難所において、喫煙スペースの確保は、喫煙する方のストレス軽減、また喫煙しない方の副流煙等の被害の防止においても大事であると考えますが、この点、区の見解を求めます。

(2)続いて、小・中学生の防災対策について質問します。

現在、避難所の役割を担うのは、区立の小中学校がほとんどであります。その意味では、学校の事をよく知っているのは、地域の方よりも、むしろその学校職員や用務員の方になりますが、同時に、実際に学校に通っている児童・生徒たちの持っている学校固有の情報や知識も大事な要素となります。また、小中学生は、今後の10年、地域で過ごしてくれる可能性の高い人材ですので、学校での防災訓練、避難所開設訓練は、非常に重要と考えます。

現在、区立中学校では主に中学2年生を対象に、災害時の行動などの説明や、具体的な体験学習を行っておりますが、その中で、避難所開設訓練や、避難所体験訓練などはどれだけ行われているのか、お示し下さい。また、小中学生向けの避難所についての実習をしている取組みがあれば、それもお示し下さい。

次に、北区防災センターで先日 8/24 に行われた防災デイキャンプでは、小学生とその保護者で防災体験や避難所体験をされ、子どもたちは「ジュニア防災士」の認定証が交付されたそうです。こういった、子どもたちの防災意識を高める試みは大変に有意義と考えますが、さらに若年層の防災意識を高めてもらうために、平成25年から実施されている、ジュニア

防災検定を北区としても導入してはどうでしょうか。学校単位でも、ボーイスカウトなどの団体でも申し込める検定ですので、取り組む団体には補助金を用意してサポートをする事などが出来るかと思いますが、区として  
の見解を求めます。

さらに提案したいのは、「こども防災手帳」の導入です。神奈川県大和市でもこどもの防災に対する啓発の一環で採用されていて、愛知県尾張旭市でも導入されています。尾張旭市は小学生を対象に作られています、低学年用と高学年用の2種類を用意し、段階を踏んだ防災教育に力を入れています。先ほども述べた通り、子どもたちの防災意識が高まれば高まるほど、実際の災害時に大いなる力となってくれます。手軽な枚数に収められ、イラストやクイズなどを使ってわかりやすく、「どうするか」を家族と話し合っ  
て防災意識を高めあえる「こども防災手帳」の導入を是非、北区でも取り組むべきと考えますが、区の見解をお示し下さい。

2、大きく二つ目のテーマは地域猫対策、本格的な連絡協議会の設置を目指して、です。

飼い主のいない猫、いわゆる地域猫は、各地域において対策をうたねばならない課題です。

猫は年に三回出産すると言われている動物ですので、地域猫をそのままにしておくと、無尽蔵に繁殖します。また、エサを求めてゴミあさりをしてしまふ、糞尿等の被害がでる、鳴き声が気になる、猫への虐待が増える、と様々な弊害が出てきます。

こういった状況を改善するためには、地域猫が増えないように適切に地域で管理をしていく必要があります、具体的には、「TNR 運動」を推進することが有効と考えます。TNR とは、捕獲すること、トラップの T、不妊手術の事、ニューターの N、猫を元の場所に戻すこと、リターンの R をとってつけられた言葉です。

現在、北区での地域猫対策では、地域猫を増やさない不妊手術を推進する為に、予算こそ限られていますが、メスネコ1万円、オスネコ5千円を上限に、手術費の3分の2を助成する制度を実施しています。これは、実際に地域猫に不妊手術を受けるように手配をしている方々は、ほとんどが手術費用を自費で払っている現状を鑑みるに、非常に大きなことで、大事な取組みを実施していると認識をしています。

しかしながら、地域猫に対しては、地域住民の方々の中でも認識の違いがあり、ボランティアの方々の個人的な活動だけでは、なかなか大きな効果を生むことが難しいのが現状です。

そこで、地域猫対策としての、本格的な連絡協議会の設置に向けた取り組みを、北区でも進めていくべきではないかと考えます。

例えば新宿区では、猫の被害で困っている方や地域猫に対してのボランティアの方々、町会や NPO、獣医師などが参加する連絡協議会を、「区長が」名誉会長となって開催をしています。

私が訴えたいことは、地域猫の問題は、単に猫が好き、嫌い、といった感情論でのトラブルを避けるためにも、行政と地域住民の方々と、ボランティアの方々が、力を合わせて問題解決に動く機関をつくること、この地域猫問題を解決するうえで、一番大事なポイントになるのではないかと、ということです。

実際に、北区の中でも自治会単位で地域猫対策に取り組まれている地域も出てきている今、北区としても一歩進める段階にきていると考えます。さらに言えば、現在、ボランティアの方々は横の連携がなかなかうまく取れていない現状もうかがっております。その状況を打開する為に、「区が主体となって」ボランティア団体が集まれるように手はずを整えていくことで、初めて連絡協議会も多種多彩な方々が参加いただける環境が整い、地域の方々との連携も取れていくものと確信します。また、東京都の、

「飼い主のいない猫対策緊急促進事業」の補助条件の一つになる、推進協議会等の設置にも繋がっていくと考えますので、財源確保の点でも重要と考えます。

以上の観点から、3点、質問します。

まず、北区において、地域猫の頭数や被害の現状をどれだけ把握しているのか、お示し下さい。

また、北区において、地域猫問題をどのようにとらえているのか、考えをお示し下さい。

次に、この問題は、行政と地元地域の方々と、ボランティアの方々がしっかりと連携していかないと解決しないと考えますが、そのための連絡協議会の設置についての区の見解をお示し下さい。

昨日の代表質問でも取り上げられたテーマではありますが、さらにもう一步踏み込んだ答弁をお願い致します。

3、 続けて、地域の3つの課題について質問します。

(1) 最初に、赤羽台エレベーター周辺の諸問題の解決についてです。



赤羽台エレベーターは、赤羽駅西口から北赤羽、浮間に抜けるためのトンネル上に建設がされ、本年 2/28 より開通して地域の方に大変に好評です。この夏には、エレベーター上の目の前にあるしだれ桜の場所は緩やかなスロープと階段が出来、当初あった道路との段差も解消され、ますます利便性が上がりました。

しかし、その一方で、地域的にエレベーターの上も下も、住宅がない場所で、しかも奥まったつくりなので、特に夜間の防犯上の心配が地域の方から危惧されております。例えば、防犯カメラも、エレベーター内外に取り付けられておりますが、特に外側の防犯カメラは、景観を損ねない程度で、もう少し存在をアピールする為の工夫があっても良いのではないかと思いますし、エレベーター東側の自転車用スロープ付きの階段は、灯りがついていてもまだ暗いと感じる方が多いようです。是非、調査し、改善を進めるべきと考えますが、区としての見解を求めます。

また、これはエレベーターがない時からの問題なのですが、エレベーター西側の以前からある階段について、石段で、細い階段であるからか、特に雨天時に転倒した経験のある方が何人もいらっしゃいます。是非、雨天時でもすべらない加工をするか、階段の抜本的な修繕を求めます。こちらに関しても区の見解を求めます。

さらに、特にエレベーター上なのですが、これから変わっていく赤羽台の地域の入り口として、全体像の案内図の設置を求めます。今すぐというよりは、全体像が出来てからの設置でよいと思いますが、私自身、この近辺で道を尋ねられることがありますので、利便性向上の為にも必要かと考えます。区の見解をお示し下さい。

(2) 二つ目の地域課題は、桐ヶ丘区民センターの建設についてです。桐ヶ丘には現在、区民センターはありません。これから建設予定になっている桐ヶ丘区民センターには、地元地域では大きな期待がかけられています。私としては、桐ヶ丘区民センターには、高齢者の方が、「ここに行ってみようかな」と思って出かける理由になるような機能を持たせるべきと考えます。高齢化が進む桐ヶ丘地域では、フレイル予防になるような魅力ある設備を導入することが必要不可欠です。

他方で、区民センターは、決して高齢者だけが利用するものではありませんので、全年代がその利益を享受する、そういう機能をたくさん持たせていくべきと考えます。

以上の事を踏まえ、この施設には、是非2つの機能の導入を提案します。そのひとつは、ふれあい館の機能です。桐ヶ丘2丁目に、ふれあい館は

既にあるのですが、そこはエレベーターもなく、施設のにも老朽化して来ていますので、桐ヶ丘区民センターには、ふれあい館の機能も持たせるべきだと考えます。

もう一つは、図書館機能です。桐ヶ丘地域には図書館がありません。また区内近隣の図書館はやはりエレベーターがなく、高齢の方や車椅子の方には利用が難しい現状があります。是非こちらも検討されるべきと考えます。

また、建設場所についても、なるべく多くの方が利用しやすい場所に建設することが、非常に大事であると考えます。

現時点での桐ヶ丘区民センターの検討状況と、今述べた機能の導入についての区の見解を求めます。

(3) 3つ目の地域課題は、赤羽台さくら並木公園周辺道路の工事についてです。

赤羽台さくら並木公園周辺の道路、補助 157 号線の諏訪神社から八幡小学校に向かう通りは、地元地域では桜の名所として昔から親しまれてきました。しかし桜の樹齢から植え替えと、道路の整備を複数年かけて行う計画になっていて、現在も進行中です。

この桜並木は、災害拠点病院である東京北医療センターの真下にあり、災害時の緊急搬送など、非常に重要な通りとなります。桜の植え替えをしている今だからこそ、この通りの無電柱化に取り組むことで、災害時の電柱の倒壊による交通障害を防ぐことが出来ます。是非、無電柱化に取り組むべきと考え、提案します。植え替えた桜の根が育ってしまう前に無電柱化を進めるこの提案について、区の見解を求めます。

また、この通りの八幡小学校北バス停がある赤羽台3丁目、14番地と15番地の間の通りの入り口が、道路が細すぎて消防車が入ることが出来ません。通りの奥は住宅密集地域になりますので、災害時や火災時に被害が甚大になる可能性が高いです。防災の観点からは、こちらの工事も早急に求めます。この提案に関しても、区の見解をお願いします。

私の質問は以上となります。ご清聴いただき、大変にありがとうございました。